

News Release



本資料は 2010 年 8 月 31 日に BASF 本社(ドイツ)で発表されたプレスリリースの和訳です。

2010 年 9 月 22 日

BASF、プロピオン酸製造開始 50 周年

- 幅広い用途の中間体
- エコ効率の高い飼料添加剤

お問い合わせ:
BASF ジャパン株式会社
クロス 雅子
TEL: 03-3796-4864
FAX: 03-3796-4111
masako.cross@basf.com

50 年前の 1960 年夏、ドイツ ルートヴィッヒスハーフェンの BASF フェアブント・サイトにおいて、プロピオン酸の大型製造プラントが稼働しはじめました。“酸”味がきいた成功物語の始まりです。このカルボン酸の製造プラントは、その後、中国の南京サイトにて 2005 年に運転を開始しました。2009 年には両サイトの生産能力を拡大し、年産 14 万 9,000 トンとした結果、BASF は世界最大級のプロピオン酸メーカーとなりました。天然にも存在するこの有機酸は飼料用穀物の保存料として重要であるほか、医薬品、農薬、プラスチックなどの合成にも用いられます。これまでに BASF が製造したプロピオン酸は、累計 240 万トンにのぼります。

プロセス効率の改善

1941 年、化学分野の世界的な権威として知られる BASF の化学者、ヴァルター・レツペが、プロピオン酸をエチレンから合成することに成功しました。そして 10 年後、BASF はパイロット・プラントを建設し、1 年後には商業生産にこぎつけました。このプラントは年産 1,200 トンで設計されていましたが、需要が増加しつづけたため、すぐに能力不足となりました。その結果 1960 年に建設されたのが、現在プロピオン酸の製造に用いられている大型プラントです。ルートヴィッヒスハーフェンでプロピオン酸の製造責任者を務める Dr. ベアント・バルテンバッハは、次のように述べています。「合成自体は今もレツペ教授が開発した原理に基づいていま

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4864
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

すが、プラントについては長年の間に最適化と拡張を重ね、製造効率は格段に高まっています」。

エコ効率の高いプロピオン酸のメリット

プロピオン酸は、現在、レッペの時代とは比べものにならないほど重要な物質となりました。レッペの時代は、生産量の 70%近くがプロピオン酸ビニルの製造に使用されていました。それはポリマー・ディスパージョンに加工され、最終的には、ビル外装の保護塗料として使用されていたのです。

しかしながら、現在の最大の用途は、飼料用穀物の保存料です。プロピオン酸にはカビを防止する機能があるため、飼料用穀物を長期間、新鮮な状態に保つことができるのです。他の方法と比較して、プロピオン酸による飼料用穀物の保存のほうが経済的にも生態学的にもメリットがあることが、エコ効率分析法によって確認されています。乾燥させたり気密サイロに保存したりする方法よりも、エコ効率が格段に高いという結果が出たのです。BASF では、プロピオン酸をベースとした保存料を「Luprosil®(ルプロシル)」という商標で販売しています。

プロピオン酸塩のひとつ、プロピオン酸カルシウムを使用すると、スライスしてパッケージした食パンの鮮度を長く保つことができます。このほか、医薬品、農薬、溶剤、熱可塑性樹脂の製造にもプロピオン酸が使われています。BASF 中間体事業本部プレジデント、Dr. ベアテ・エーレは、次のように述べています。「BASF では、日常生活に幅広く役立つ中間体を 600 種類以上も提供していますが、プロピオン酸はその代表的な製品と言えます。BASF の革新的な能力、そして世界的に顧客とともに成長する力を明確に示す例だとも言えるでしょう」。

BASF のプロピオン酸に関する詳しい情報は、下記 URL をご覧ください。

<http://www.intermediates.basf.com/en/intermed/news/topstory/archiv/propionsaeure.htm>

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4864
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

■BASF の中間体事業本部について

BASF グループの中間体事業本部は中間体の開発から製造、販売までを行っており、600 種類以上もの中間体からなる包括的なポートフォリオを世界的に展開しています。中でも特に重要性が高いのは、アミン類、ジオール類、多価アルコール類、酸類、スペシャルティ製品などです。中間体は、塗料やプラスチック、医薬品、繊維繊維、洗剤、農薬の出発原料として使用されており、BASF の革新的な製品は、最終製品の特性の改善および、生産プロセスの効率性の向上に役立てられています。BASF の中間体事業部は ISO 9001:2000 認証を取得し、ヨーロッパ、アジア、南北アメリカに生産拠点を展開しています。中間体事業本部の従業員数は 2,620 人で、2009 年の世界での売上高は 19 億ユーロ、ホームページのアドレスは、www.basf.de/intermediates(英語)です。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標榜する世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ラインは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品、石油・ガスと多岐にわたっています。BASF は信頼に応えるパートナー企業として、化学を通じあらゆる産業のお客様のさらなる成功を支援しています。また、高付加価値製品と高度なソリューションの提供により、気候保全やエネルギー効率の向上、栄養、交通・運搬環境の改善といった世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。2009 年の売上は 500 億ユーロを上回り、従業員数は約 10 万 5,000 人です。BASF の詳しい情報は、www.basf.com(英語)、www.japan.basf.com(日本語)をご覧ください。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4864
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>